

第5部 地域への広がり

第1章 サークル活動

1 おなべの会

(1) 会の歩み

1980年度の青年学級成人班の活動で調理を中心にやってきたメンバーからの「青年学級以外でも調理をしたい」「調理を続けたい」という思いから1981年にはじまった料理サークルです。

活動は月一回のペースで青年学級のない土、日、祝日に主に調理実習室で行っています。

(2) 活動の流れ

まずロビーに集まり、受付で利用料を支払い、鍵を受取り調理実習室に向かいます。部屋に入るとまず、参加メンバーが会費300円を払い、払った人からノートに記名していきます。

その後、ホワイトボードにその日のメニュー、必要な食材や調味料をみんなで確認しながら書き出していきます。メンバーのなかにはボードを見ながら手帳にメモを取っている人もいます。

次に買い物に行く人と、残って食器や調理器具の準備、お茶の用意をしたり、ご飯を炊く人に分かれます。

買い物は、公民館隣のデパート地下のスーパーで行っています。レジで会計を済ませると、手分けして食材を運びます。

調理実習室に戻るとまず食材を、洗う、切る、を手分けして行っていきます。ごはんが炊き上がるまでの間や作業が一段落した際には、再びホワイトボードに向かって、今後の活動で作りたいものを出し合います。メニューを提案した人は、なぜこのメニューを作りたいかを説明し、最終的なメニューの決定は挙手による多数決で行っています。

(3) 2021年度の活動

4月17日 土曜 10:00~14:00

ミートソーススパゲティと温野菜

5月8日 土曜 10:00~14:00

公民館休館のため中止

6月5日 土曜 10:00~14:00

お好み焼きとフルーツポンチ

7月17日 土曜 10:00~14:00

冷やし中華とパイナップルデザート

8月15日 日曜日 10:00~14:00

夏野菜のチキンカレー

9月18日 土曜日 10:00~14:00

生地から作るトマト缶ピザ

10月30日 土曜日 10:00~14:00

野菜たっぷり豚汁とごはん

11月20日 土曜日 13:00~16:00

生クリームといちご、キウイのパンケーキ

12月26日 日曜日 10:00~14:00

ハンバーグとポテトサラダのランチ

1月8日 土曜日 13:00~16:00

餅入りぜんざい

2月27日 日曜日 10:00~14:00

鶏肉とほうれん草のクリームグラタン

3月27日 日曜日 10:00~14:00

焼きそば



(4) メンバーの入れ替わりと援助体制

メンバーの構成については、「青年学級」か「とびたつ会」などに参加している人が中心ですが、最近、青年学級に入った人や学級と関係なくロコミや公民館からの情報などに加わってきた人もいます。

一方、グループホームでの生活を始めるメンバーも増え、そこでの行事や人とのつながりができることから、おなべの会を卒業していく場合もあります。

また新型コロナウイルスの流行以降、メンバー、スタッフともに欠席率が増えています。そのため全体にゆったりした活動が行えるようになっていますが、今年に入ってスタッフが2名という状

況が続いていて、援助者の確保も課題の一つになっています。



(5) 活動の経費の確保

2018 年度から町田市社会福祉協議会より歳末たすけあい地域福祉ボランティア活動助成金を受けることになりました。そのため、郵送代、印刷代、会場費など材料費以外の経費は、最終的に助成金でまかなうことができ、それによりスタッフの持出しなど経済的負担も少なくすることができています。

会場費については、10 年前からは公民館施設有料化となり、さらにその後の値上げもあり、約 2000 円（1 日の場合は約 4000 円）の施設利用料がかかっています。今年度はゆったりした活動が行えるように、できるだけ午前、午後のコマで活動を行ってきましたが、毎回二コマ取ると、会場費だけで年間約 5 万円になってしまい、社協の助成金で賄いきれなくなることから、見直しを迫られています。

郵送代は、はがき代が主になりますが、以前にはがきカンパを呼びかけたことがあり、現在もメンバーから余ったはがきなどのカンパが寄せられています。

参加費については、メンバーが参加しやすいように 40 年前のサークル発足当初から参加費を 1 回 300 円として、食材の購入費用に充てています。しかしながら実際には、この金額では不足することが多いので、スタッフのカンパによる調味料やお米、野菜などを活用したり、時に不足金額の持出しとなることもあります。

メンバーからは会費を値上げしたらどうかという意見もありますが、経済的に厳しい考えるメンバーも多くいて、慎重にならざる負えないとこ

ろがあります。



(6) 会場の確保について

会場の確保は、公民館でないと参加できないメンバーがいることや調理活動ということから公民館調理実習室に限られる状況にあります。

その申し込みを施設予約システムの抽選への参加という形で行っていますが、利用の可否は競争率とくじ運に左右されることから、調理実習室が取れない、スタッフが手薄の日にしか会場を確保できないなど、相変わらず会場確保の悩みは尽きない状況です。

2. とびたつ会

とびたつ会は、2004 年にはじまった本人活動の会です。当時青年学級は 180 人を超える人数と担当者の不足で青年学級を希望する若い人が入れない状況でした。また、各地では本人活動が活発になってきていました。そこで、本人活動の会を町田でもつくって、青年学級を卒業することで新しい若い人たちに青年学級を経験してもらおうと考えました。最初は 8 人でスタートしました。

(1) 参加者

2021 年度の活動メンバーは最終的に 28 人でした。女性 9 人、男性 19 人。青年学級を経験した人 15 人、とびたつ会の直接入った人 13 人。車イスを利用する人が 8 人。ヘルパーさんと一緒に参加する人が 5 人でした。

(2) 活動日と活動場所。

毎月第 2、第 4 日曜日 午前 10 時～16 時。会場は公民館など公共施設を利用しました。コロナ

禍の影響か、比較的確実に予約することができませんでした。

(3) 運営の体制

活動にあたっては、毎週木曜日 18 時から 21 時に公民館の一室で運営会議を開いて準備をしています。

本人活動ですが、支援者も 9 人ほど参加して活動を支援しています。

(4) 2021 年度の主な活動

2020 年度後半から 2021 年度前半に、第 20 回若葉とそよ風のハーモニーコンサート開催に向けて準備に取り組みましたが、コロナ禍のため、5 月 22 日の市民ホールでの公演は中止せざるをえず、代わりに 8 月 8 日に DVD を作成するための映像収録を行いました。8 月まではほぼその準備となりました。

その後の活動は、コロナ禍のため人数も 10 人前後でしたが、感染が下火になった 10 月から 12 月にかけては 16~19 人と多くに人が参加しました。1 月からは第 5 波により、人数が激減しました。以下特徴的な取り組みを記します。

① わかそよ 2021 参加 (8/8)

前述したとおり、コンサートが中止になり映像の撮影を行いました。6 グループに分かれての取り組みのうち、とびたつ会は「いまをいきる」をテーマに内容を検討しました。その中で稲村宏美さんが詩を書いた「ひだまりの音」。コロナ禍でなかなか会えない友だちへの思いを込めた歌です。また、参加者のコロナ禍での体験や困ったことを歌にした「ダメダメダメソング」、同じくコロナ禍と自由を考えた歌「自由 (コロナ版)」、青年学級の最初の担当者だった永野むつみさん (劇団ひばりあむ主宰) がコロナ禍がはじまったころに書いた詩を歌にした「あたりまえのうた」、コロナ前の日常生活の様子を歌にした「ひまわり」をうたいました。

② 作業所ガッツビート研修用映像作成

横浜にある作業所から、職員研修にあたって多磨全生園・ハンセン病資料館に見学に行った様子を紹介してもらいたいとの依頼がありましたので、歌「あっぱれな人生」(モチーフは映画「あん」)

をつくった背景を作文と歌で表現し、映像にまとめて、提供しました。

③ センターまつり用 動画収録 (10/24)

センターまつり用に動画を収録し、参加しました。



④ 市民大学と愛知県からの視察対応 (11/28)

市民大学福祉講座と文科省の事業を受託した春日井市・瀬戸市の皆さんの視察に応えました。

⑤ 望年会 (12/26)

わかそよの伴奏に関わった奥居美穂さん、サンシ・モンさんをゲストにホールで望年会を開催しました。

⑥ 国分寺市くぬぎカレッジ参加 (1/23)

文科省の受託事業「くぬぎカレッジ」に招かれ、国分寺市立本多公民館に出かけて、日常生活の様子を伝えるとともに、とびたつ会の活動について発表しました。

⑦ 座間市公民館講座 (3/5)

座間市東地区公民館で開催された地域福祉・教育を考える講座「『なかま』になりたくなるコミュニティをつくろう！」の招かれ、歌と作文でとびたつ会の活動を紹介しました。土曜日だったために参加したメンバーは 3 人でした。

⑧ 調理実習

コロナ禍でしたが、希望の多かった調理実習に数回取り組みました。アイスクリームづくり (9/12)、パンとシチューづくり (11/14)、ちらし寿司づくり (3/12) に挑戦しました。



(5) 活動を振り返って

2021 年度もコロナ禍に翻弄された活動となりましたが、2020 年度の経験と、ワクチン接種をはじめ新型コロナへの社会的対応ができたことで、後半は、外部との交流もできるようになり、少しずつ活動が取り戻せたように思います。コロナ禍にあって「あつまりたい」「活動したい」という要望をどのように実現していくのかを今年もまた問いながら活動した 1 年となりました。活動を中止することは容易なことです。感染しないためにはどのような対策や工夫が必要なのか。参加するしないの選択の自由。もし感染した時はどうするか。リスクを抱えながらの運営について今後も考えていく必要があります。

わかそよ 2021 の取り組みをとおして、青年学級との交流もできました。次回はぜひ市民ホールで開催したいものだと思います。

2021 年度最大の出来事は、青年学級を公民館事業として創り上げ、とびたつ会にも当初から関わられた大石（壽原）洋子さんが、10 月 15 日に急逝されたことでした。謹んでご冥福をお祈りいたします。



(文責 松田泰幸)

3. スケッチ・ルーム

(1) 会の歩み

2012 年から始めたスケッチ・ルームは丸 10 年経過しました。当初からのメンバーは斎藤さん

の他 4 人ですが、そのうちの一人、大石洋子さんが 10 月 15 日に突然亡くなってしまいました。11 月 24 日から 12 月 5 日まで図書館での展示を予定してあったので、大石さんの遺作展にもなってしまいました。たくさんの知りあいが見に来てくださったようです。

(2) 図書館展示

今年度もコロナ禍の影響で、平石引明さん、長谷川順子さんは参加できませんでした。しかし図書館での展示が決まっていたので、それを目標に自宅で作品を描きました。平石さんは静岡県のいろんな場所で写生をしています。作品 40 枚を展示しました。長谷川淳子さんも 2 作品を展示。斎藤さんは新聞紙大の大作の他、花瓶、犬、アニメの女性など展示しました。

(3) 活動の様子

透明水彩画の講師をお願いしていた方が、御夫婦で老人ホームに入居されたので、コロナ禍により外出できず。今までのお手本を描く他、それぞれ描いてみたい絵や写真に挑戦したり静物を写生したりしました。

斎藤さんは展示用大作を描いたあとは甥にプレゼントする絵、電車内を精巧に描いていました。斎藤さんは 22 回うち 15 回の参加。

よくお菓子をさし入れ「足りるかな」「たまにはおせんべいもいいかと思って」などと気を使っています。いやなことがあったりすると、昔イジメに会ったことを思い出して、絶対許さないと断言していても、絵に集中した後はアニメやゲームの話の他、ダジャレをいろいろ披露し、気分が前向きになったとわかります。3 時過ぎにお茶を飲んで帰る人は帰り、もっと描きたい人は残って続きをやります。斎藤さんは父親が 4 時に迎えに来るよう残っています

(4) 会の運営

今年度も町田市社会福祉協議会のボランティア活動補助金を 4 万円頂きました。おかげで大きい部屋を借りることができ、間を充分に開けて活動できました。その他、展示用に紙類、テープ類、額装代、運送費として使わせてもらいました。毎回部屋代として一人 100 円を徴収しています。

(5) 課題と展望

会員が増やせない状況がコロナ禍でもあり続いています。それどころか青年以外の会員は高齢者なので大石さんのように来られなくなることもあります。しかし少しでも仲間を増やし一緒にスケッチ・ルームを利用してもらいたいと思います。

4. 上を向く会 ～気流～

前身の歌の会である「風になる会」が休会になったため、2020年より「上を向く会 ～気流～」として活動を始めました。

(1) 参加メンバー

風になる会から継続して歌いたい、というメンバー6名と講師1名で練習をしています。

(2) 活動日、活動場所

毎月第1土曜日の午後に生涯学習センターの施設を利用し、活動しました。

(3) 活動の様子

機材の設置など会場の準備をして、みんなで近況報告をします。先生の演奏に合わせて発声練習をした後、1人ずつ好きな曲を2曲ほど歌います。マスクをしながら歌うことにも慣れました。全員が歌い終わった後は、みんなでコンサート用の曲を練習して一体感を持つなど、いつ出演のお声がかかっても対応できるように練習をしています。又、昨年から新たに加わったことは、それぞれ役割分担をしながら活動をしたことです。

主な役割とは

- ・施設を借りる際の受付担当
- ・機材の運搬担当
- ・会計担当
- ・検温担当
- ・消毒担当 など

新型コロナウイルスの対応も入れて実施することができました。

又、生涯学習センターの施設の一部が新型コロナウイルスワクチン接種会場となり使用可能な部屋に制限があったため、機材の運搬や移動がスムーズにいかないこともありましたが、協力しあい活動することができました。

(4) 2021年度の主な活動

毎月1回の活動以外に、8月には若葉とそよ風のハーモニーコンサートへ出演しました。楽曲

決めに始まり、振り付けや立ち位置、コンサートごとに作る「わかそよTシャツ」の色決め等々、意見を出しあって決めました。上を向く会からコンサートの実行委員に立候補をして、会の代表として話し合いに参加しました。

当日は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため録画撮影となりましたが、本番を終えた後はメンバーの希望で反省会をしました。メンバーからは「緊張した」「参加できて良かった」「次は大きなステージで歌いたい」という声上がり、達成感と笑顔の報告会になりました。コンサートのDVD完成が待ち遠しかったです。

(5) 課題と今後の展望

自分たちの日頃の練習の成果を発表する機会を持ちたいです。今後も若葉とそよ風のコンサート、とっておきの音楽祭など歌のイベントには積極的に参加していきたいと考えています。又、チラシを作成して配布をしたり、新規メンバーを増やす活動もしていきたいです。

とびたつ会活動経過(2021年4月～2022年3月)

	月日	内容	参加人数	場所
1	4月11日	午後から「わかそよ2021」練習 「この今を生きる」パート	10人	公民館 ホール
2	4月18日	午後から「わかそよ2021」練習 「この今を生きる」パート	10人	公民館 ホール
3	4月25日	緊急事態宣言発出。公民館が閉鎖により練習中止		
4	5月9日	わかそよ2021練習中止		
5	5月16日	わかそよ2021練習中止		
6	5月22日	わかそよ2021本番中止		
7	6月13日	やっぱりあつまりたい人の会 紹介ビデオ撮影 わかそよ準備	8人	公民館 調理実習室
8	6月27日	近況報告 わかそよ台本準備と練習 今後の予定	10人	市民フォーラム 学習室
9	7月11日	なんちゃって夏野菜カレーづくり わかそよ練習	11人	公民館 調理実習室
10	7月25日	わかそよ練習	9人	公民館 調理実習室
11	8月1日	午前中＝わかそよリハーサル 午後＝練習	10人	健康福祉会館
12	8月8日	午前＝わかそよ2021 収録	10人	健康福祉会館
13	8月22日	わかそよ収録の振り返り、とびたつ会としての活動の継続を決める	9人	市民フォーラム 学習室
14	9月12日	アイスクリームづくり、わかそよ2021の映像を確認	10人	公民館 調理実習室
15	9月26日	ガッツビート研修資料「あっぱれな人生」をうたうビデオを撮影	14人	公民館 調理実習室
16	10月10日	近況報告、生涯学習センターまつり用動画準備と練習	19人	公民館 調理実習室
17	10月24日	生涯学習センターまつり用動画撮影 大石洋子さん追悼	17人	公民館 調理実習室
18	11月14日	パンづくり・シチューづくり、次回市民大学のための準備	17人	市民フォーラム 調理室
19	11月28日	市民大学福祉講座(7人)、春日井市・瀬戸市(7人)視察	16人	公民館 調理実習室
20	12月12日	前回の視察の振り返り、望年会検討、くぬぎカレッジについて	17人	公民館 調理実習室
21	12月26日	午前＝わかそよ2021完成 午後＝ホールで望年会	16人	公民館 美術工芸室 ホール
22	1月9日	年末年始の様子報告、初詣、DVD「わかそよ2021」を観る	14人	公民館 視聴覚室
23	1月23日	国分寺市本多公民館 くぬぎカレッジに参加	8人	国分寺市立本多公民館
24	2月13日	近況報告 選挙の話 座間市東地区公民館での発表準備	8人	公民館 調理実習室
25	2月27日	近況報告 お金の話 座間市東地区公民館での発表練習	8人	公民館 視聴覚室
26	3月5日	座間市東地区公民館講座発表	4人	座間市東地区公民館
27	3月13日	ちらし寿司づくり ひかり学級成果発表会見学	10人	公民館 調理実習室
28	3月27日	2021年度の活動の振り返り ふれあいコンサートについて	11人	公民館 視聴覚室
		合計	276人	

第2章 若葉とそよ風のハーモニー2021

若葉とそよ風のハーモニー2021

2021年8月8日（日）に健康福祉会館にて、若葉とそよ風のハーモニー2021 コンサートを動画撮影しました。今回のコンサートは総勢137名が参加しました。

本来であれば、5月22日に市民ホールで行っている予定でしたが、コロナ禍で緊急事態宣言が発出されたことを受けて公共施設が利用することができなくなったことにより、一時期は活動が中止となることもありました。そういった状況に置かれても、参加できるメンバーだけで、わかそよをやらなければならないというある種の使命感から、6月からの青年学級の通常の活動日の中でも練習を行い、8月に録画形式という形で実施されました。1987年から行われているわかそよの長い歴史の中でも異例の回となりました。

特徴的な取り組みとしては、第19回から参加した「上を向く会」のほかに、「みんなのいのち」、「私たちの権利」、「平和の輪を広げよう」、「わかそよの歴史」、「この今を生きる」の6つのグループに参加者それぞれが思い思いに分かれて歌や思いを紡ぎました。そしてエンディングには、6グループそれぞれが同じ歌を届ける構成にしました。

経過

2020年9月20日 第1回実行委員会準備会

2020年9月27日 第2回実行委員会準備会

2020年10月25日 第1回実行委員会

2020年11月15日 第2回実行委員会

2020年12月6日 第3回実行委員会

[緊急事態宣言2回目] 1/8～3/21

2021年1月17日 第4回実行委員会

2021年2月21日 第5回実行委員会

2021年3月14日 第6回実行委員会

2021年3月28日 結団式

2021年4月6日 一部練習開始

2021年4月11日 全体練習

2021年4月18日 全体練習

[緊急事態宣言3回目] 4/25～6/20

2021年4月25日 全体練習（中止）

2021年5月9日 全体練習（中止）

2021年5月16日 全体練習（中止）

2021年5月22日 市民ホール本番（中止）

2021年6月～7月 各学級日にグループ練習

[緊急事態宣言4回目] 7/12～9/30

2021年8月1日 全体練習 健康福祉会館

2021年8月8日 本番 健康福祉会館

実行委員会

事前に2回の準備会を行った後、2020年10月に第1回実行委員会が行われました。

まず、5月22日に市民ホールで行うことを確認した後には、公民館学級、ひかり学級、とびたつ会それぞれの新曲を紹介しました。その後の話し合いでは、大枠として一部に劇などを行い、二部のコンサートでは公民館・ひかり・土曜学級・とびたつ会に加えて、上を向く会がそれぞれに歌うことが確認されました。

そして、多くの人が集まりやすい町田駅近隣であること、定期的実施する必要があること、そして何よりも公民館学級のわかそよに向けた強い思いを実現するための場にしていきたいとの理由から、2回目以降の実行委員会は、公民館学級の

活動日の午後の時間帯に、まちだ中央公民館7階ホールで行っていくことが話し合われました。

しかしながら、コロナ禍でのコンサートの実施に向けた話し合いをする中で、今まで通りの形式での実施は難しいのではないかとの意見がありました。例として挙げると、フィナーレのように参加者一同が舞台に上がり合唱する姿は、わかそよの魅力や力強さを伝える印象的なシーンではあります。ただし、コロナ禍の視点から見ると密閉、密集、密接の3密がすべて重なる場でもあります。そのため、フィナーレについては5分割にしたほうがいいのか、観客を入れられるのか、マスクをしたまま歌うのか、動画配信にしてはどうだろうか、感染対策をしたうえでのコンサートの実施方法を考える例年にない悩みを抱えた年となりました。

また、コロナ禍により参加者数の少なさについても話し合われました。これは、一定程度、感染状況が落ち着いた時期であっても本人や家族グループホームなどの判断で参加を控えざるを得ない人がいる中で、第20回という節目のわかそよを実施していいのかという話し合いも同様に重ねられました。このことは、同時にこういった状況だからこそ、わかそよを実施することが自分たちだけでなく、参加することができない人たちを元気づけることにつながるのではとの意見もありました。

こういった実施方法や参加者が例年より少ない中での話し合いではありましたが、毎月実行委員会が行われたことで、2021年2月の第5回実行委員会で、テーマが決まりました。

「歌いつづけよう 伝えつづけよう

～かわること かわらないこと かえていくこと～」

これは、学級ソングを歌い続ける、伝え続けることの大事さであり、コロナに代表される大きな社会情勢の変化があつたとしても、変わることのない大切なこと、変わらないことの大切さ、変えていくことの大切さを訴えていきたいとの、それぞれの思いを形にしたものです。

そして、2021年3月の第6回実行委員会では、第20回はみんなが参加できるときにとっておくため、今回は第何回という形ではなく「若葉とそよ風のハーモニー2021」にすることが話し合われました。

しかし、4月下旬に3回目の緊急事態宣言が発出に伴い、公共施設などの会場が利用できず練習ができなくなったこと、2021年11月から市民ホールが改修工事のため長期休館することから翌年への延期もできないことなどから、市民ホールでの実施をあきらめざるを得ませんでした。ただし、中止にするのではなく、みんなが苦しい今この時期だからこそ何か形にして届けることができないかと話し合われた末の代案として、コンサート録画という方法が提案されました。

撮影日も、当初は市民ホールで行う5月22日が検討されましたが、宣言の延長に伴い練習をすることもできなかつたため、8月に日程変更をしました。

こういった経緯から当初の市民ホールで行う予定だったときの日程と、その後に変更され録画になった日程を掲載します。

当初の市民ホール案

10月～毎月実行委員会

- 3月下旬 結団式
- 4月11日 全体練習
- 4月18日 全体練習
- 4月25日 全体練習（中止）
- 5月9日 全体練習（中止）
- 5月16日 全体練習（中止）
- 5月22日 本番（中止）

変更後の録画撮影日程

- 6月～7月 学級や会でグループ練習
 - 8月1日 全体練習
 - 8月8日 撮影本番
- 6月～7月までのグループ練習では、学級日やとびたつ会、上を向く会のそれぞれの活動日の中で練習を行っていくことになりました。

グループ練習

グループ練習をすることが決まったことで、活動場所、活動日の兼ね合いから多少のグループ間の異動があり、結果として以下のような構成で練習が行われました。

- 「上を向く会」→上を向く会
- 「みんなのいのち」→公民館・土曜学級
- 「私たちの権利」→公民館・土曜学級
- 「平和の輪を広げよう」→ひかり学級
- 「わかそよの歴史」→公民館・土曜学級
- 「この今を生きる」→とびたつ会

また、グループ練習をすることになり、活動場所が増え、人通りが多い町田駅前には参加を控えていた青年たちがひかり学級に参加するという青年もいた一方で、グループへの帰属意識の強さから、自身が本来所属する会への参加を辞退する青年もいました。

なお、このグループでの練習から全体練習、本番までの詳細については、各グループからの報告に委ねます。

全体練習

8月1日のたった1回だけでしたが、健康福祉会館で全体練習を行いました。今まで経験したことのない録画形式でのわかそよの事実上のリハーサルは、以下の形で行いました。

- ① 感染対策のため、午前3グループ、午後3グループの二組に分かれる
- ② 4階講習室が一番広い部屋で2グループが練習
- ③ 2階会議室がカメラや、わかそよバンドが入った中での通し練習

慣れない場所での活動ということもあり、駐車場での乗り降りに手間取ったりすることもありました。

なお、勤務先での集団接種2回目が本番前日という人が特に多かった「平和の輪を広げよう」グループは、この日にリハーサルと本番を実施しました。また、このほかにも様々な事情から本番の日に参加ができないことが見込まれている人もいたことから、完成した動画の中には、この日の映像が一部差し込まれています。

本番

8月8日は以下のように行いました。

- ① 午前2グループ+オープニング、午後3グループの二組に分かれる
 - ② ③については、同上
- 2回続けてやることで少しずつ勝手が分かって

きたことで、4 階講習室での練習から 2 階会議室での撮影という流れがスムーズになりました。

なお、各グループ 15 分～20 分の発表時間のほか、エンディングのために「わかそよテーマの歌」をグループでの発表を終えた後に、追加で撮影をしました。

撮影後

今回の撮影は、グリーンバックで行いました。そのため、撮影後に背景用の写真を用意する時間も必要となりました。また、「わかそよの歴史」グループは、過去のわかそよの動画を差し込むという工程を経て、エンディングロールの挿絵や音源作成などの編集工程を経て、映像作品となりました。完成した各学級や会の活動日に共有しました。家庭や職場などで観覧したという話も聞きました。

2014 年頃からのわかそよの動画はインターネット上に公開していますが、感染対策のあり方について様々な考えがある中で、撮影時の感染対策をめぐって万が一の批判を避けるために、関係者のみが視聴できるよう公開しています。

グループ活動

いのちグループ

1. 集団の特徴

「みんなのいのち」のグループは出生前診断、やまゆり園の事件をテーマに発表を行いました。声を出して歌うことが苦手なメンバーが多く、歌声やセリフのかたちでは表現がむずかしいメンバーが多かったので発表方法に工夫が必要でした。しかし、みんな、いのちの歌を伝えたい、いのちの大切さについて発信をしたいという強い思いを持ってこのグループを選択していました。

2. 活動の様子、評価

(1) 学級ソングに込められた思い

本番に向け発表の構成を検討していく中で、青年学級の学級ソングの中にある、「いのち」や「やまゆり園事件」に関連する歌の制作背景を振り返る活動を行いました。当時歌作りに関わったメンバーを中心に話し合いが進み、楽曲に込められた思いを共有しました。

いのちの歌に関しては、「出生前診断については怒りを感じてばかりいたが、みんなで話し合いを重ねていく中で周囲に対する愛も必要なのだとの考えが生まれた」

「自分自身は生まれたいほうがよかった人間だったと聞いた時に絶望していたが、青年学級という場所でなら跳ね返せると感じる事ができた」

「名も無い人間として死んでいくのかとさびしかったけど、認め合えることを実感し、勇気をもらえた」

「人間として認めてほしいという強いメッセージが込められており、ずっと訴え続けたい大切な曲」

などの意見が聞かれました。また、やまゆり園事件に関する歌については、「何度聞いても美しい歌が完成した」「あの事件の後に言葉に表せないほどのどうしようもない想いを抱えていたが、やまゆりの花をそばに返せばいいというメンバーの発言を聞き、救われた気持ちになった」などの意見が出ました。制作当時を振り返りながら、本番に向けいのちに対するそれぞれの想いを知る大切な時間になりました。

(2) やまゆり園事件について

メンバーの意見を発表していく際により想いが伝わるようプラカード用いることがメンバーから提案されました。本番に向け準備が進んでいく中で、プラカードの作成をしていた際に、やまゆり園の事件について一人の青年から以下の意見が出されました。

「犯人へ わたしたちはことばだけを にくんでいる あなたもおなじ人間だ」

グループのメンバーも驚く発言で、「このような考え方をしたことがなかった」という言葉が多く聞かれましたが、この意見を基に改めて、事件について深い話し合いをすることができました。犯人という人間よりも、犯人が行った「行為」そのものを憎んでいるのだという訴えから、犯人の思考や行為に疑問や怒りを持ち、そのものに対しては同じ人間であるにとらえられることは容易ではないことですが、起きてしまった事件を受け入れ、次につなげようとしていることが伺える発言であったと思います。

(3) 評価

声で気持ちを伝えられるメンバーよりも、筆談を通して意思表示を行うメンバーが多く、筆談による話し合いによって、早いうちに歌う楽曲や歌合間のメッセージ内容など発表の流れを決定することができました。また、「なぜ、このグループを選んだのか」などについても繰り返し話し合いを重ねることで、より伝えたいメッセージを明確化することができました。

メンバーの意見を発表する場面では、プラカードにそれぞれのメッセージを書いたものを、声の出せるメンバーが読み上げる方法で取り組むことにしました。今回の若葉とそよ風のハーモニーコンサートはコロナウィルスの影響もあり録画で行いましたが、録画当日に読み上げるメンバーが欠席ということも重なり、担当者の方で読み上げるようになってしまったのが残念でした。しかし、それぞれのメッセージをしっかりと伝えることができたことは良かったと思います。

また、録画当日は参加できないメンバーが、1週前の活動の中で作文の朗読を行いました。後から編集で発表の中に組み込みましたが、ダウン症当事者として力強い言葉が伝わるものとなりました。

当日に関しても、声で伝えられる数少ないメンバーが、懸命に声を出して頑張ったことで、他のメンバーも、気持ちを堂々とした表情や姿で表現することができました。

3. ^{かだい}課題と^{てんぼう}展望

【撮影本番について】

通し練習をあまり行うことができず、本番に参加できる人数も不透明であったこと、また撮影も午後一だったため、なるべくスムーズに撮影できる

よう撮影当日の午前中に担当で流れや方法を整理する時間を設けました。プラカードはできる限り青年が持ち、自らの声で発言できない青年の文章は担当者が代読する形になりました。事前に細かく打ち合わせを行えたことで本番はスムーズに撮影を行うことができた点は良かったと思います。反省点としては、今回は時間の都合上不可能ありましたが、「自分の声で伝えられることが嬉しい」という青年の想いを尊重し、代読の場合も担当者ではなく、青年が行えるように、事前に声の出せるメンバーが代読をし、収録するなどの工夫をすべきであったことです。

【動画編集に関して】

動画の編集に関しては、青年に意見を聞いたところ「グリーンバックは無くしたい」という意見以外は「担当者にお任せする。」という意見が多く出たため、担当者が画像作成及び写真選択を行いました。工夫した点としては、背景は隠れてしまう箇所が多いため、なるべく画面上に素材を配置するようにしたという点と、感謝状を表示する際に人物で隠れて読めないことを回避するようにした点です。

また、青年の写真を使用する際も、背景に写真を用いると写真が見えにくいことや、全画面に表示すると参加している青年が見えなくなるため、左右交互に表示してもらうように工夫をしました。

話し合いの段階では、青年から「絵を取り入れたい」という意見もありましたが、今回は活動時間が限られていたことなどもあり、実現することができず、この点は課題となりました。先の事を見通し、青年の意見が反映できるように、活動を組み立てるようにしたいと思います。

☆みんなのいのち台本☆

(作文朗読)

ぼくはしゅっせいまえのしんだんについていいたいことがあります。
ぼくはしゅっせいまえのしんだんをもしやったらうまれてくることのできなかつたダウンしょうのになげんです。
もし、ぼくがうまれてこなかつたら、やさしいかあさんにもあえなかつたし、すてきななかまにもあうことができませんでした。
こういうおもいをできないままなくなつていったなかまのことをおもつと、まいにちきもちがゆううつになります。
どうにかしてぼくは、ダウンしょうというしょうがいがあつてもしあわせなじんせいをあゆめるようにしてほしいです。

♪①いのちのことば

ぼくらは いかりをかんじてる うばわれるべき いのちなどどこにもない
生きることこそ すばらしい 生まれなければ かんじないこと
生きているぼくらは 知っている ぼくらのこころの声を きいてほしい
生きていてよかつたと 生まれてきてよかつたと
この声でこの歌で 伝えたい とおといいのち
ぼくらは 愛をかんじてる だきしめる 母のぬくもり
手をひく父の 大きな手 あなたが生んでくれた このいのち
たいせつにぼくらは くらしてゐる すべてのいのちの かがやきを かんじてほしい
生きていてよかつたと 生まれてきてよかつたと
この声でこの歌で 伝えたい とおといいのち

プラカード① 「お父さん、母さん、ありがとうぼくたちにいのちをくれて」

♪②ありがとうのうた

あなたにおくるかんしゃじょう だいすきなかぞくへ
あいをこめててがみを かきました えいようたつぷりの おいしいごはん
ぼくら3きょうだいを がっこうへ あしばのわるいところを よけてくれる
おとうさんかあさん あなたのこどもにうまれてよかつた いい子でいたいけど

なかなかできなくて もどかしい なまえをよばれるたびに
あいされていることを かんじます ありがとうあいしてる
きもちをたくさんこめてうたうよ
あなたにおくるかんしゃじょう たいせつなあなたへ
かんしゃをこめててがみを かきました たいこのたのしさ おしえてくれた
みんなとまいにち はたらける がっきゅうのなかまと きょうも ささえあえる
せんせいともだち なかまにたくさん めぐりあい
しあわせとゆうきを たくさんわたしは もらってる
なまえをよばれるたびに あいされていることを かんじます
ありがとうあいしてる きもちをたくさんこめてうたうよ

プラカード② 「うまれてくるちいさないのち」

プラカード③「いのちの灯をまもろう」

プラカード④「いのちのかちはみんなおなじ」

”

♪③みんなのいのち

小さいなみだがずっと ほほをしずかにながれた
みんなを なきものにするという つめたい言葉をきいて
われわれが 生きてゆける場所は もうどこにもなくなりそうだ
もうじき 夜明けがくると おもっていたけれど
どこにも その気配さえ みられなくなった
人間としてのみんなの尊厳（そんげん）を ごんごと わきいづる 清水のように
うったえていかななくてはならない 未来に向かって
どんないのちも平等（びょうどう）だ そんな言葉がなつかしい
震災（しんさい）のときの やさしさを もうみんな忘れてしまったの
小さいときからぼくは 差別（さべつ）にくちを ふさいできたけれど
もうだまってはられない ぼくたちの声をとどけたい
おんなじ空気をすって おんなじ水をのみ
おんなじ血がながれている おんなじ人間だ
人間ということばが これ以上 こわされないように

人間としてのみんなの尊厳（そんげん）を どんどんとわきいづる 清水のように
うったえていかななくては ならない未来に向かって未来に向かって

ブラカード⑤ 「いきるいみはぼくにもある」

♪④やまゆりにささげるうた

ことばがあったことを だれにも知られることもなく むざんにちったやまゆりに
今ささげようこのうたを まっすぐのびたやまゆりは
けだかく空を みあげているが やまゆりのひとみは なみだにぬれて うるんでる
どうして花を あしげにしたの 花は二度とはもどらない
いのちをやどすものはみな たくさん意味をせおってる
かえがたいいのちを もう一度 よみがえらせる きせきはどこと
どんなにさけべど空は こたえてくれない

♪⑤えいえんのやまゆり

あの青空にうつくしい やまゆりの花をささげよう
やまゆりの花のさく場所は この大地からあの空へ
やまゆりのたましいは 永遠だから あの青い空へ やまゆりのたましいを
こころをこめて ときはなとう

ブラカード⑥ 「犯人へわたしたちは言葉だけを憎んでいる。あなたも同じ人間だ」

ブラカード⑦ 「ずっとぼくたちは頑張って生きてきた」

ブラカード⑧ 「みんなのいのちには意味がある」

ブラカード⑨ 「わたしも人間だ」

♪⑥つながるいのち

いのちいのちいのち かがやけいのち
ねがいと りそうの みらいへ つながれいのち
生まれたいのちはみんな たいせつだから

みんなで手と手をつないで 支えあっていこう
つながる輪から パワーがあふれ
みらいへと いのちを つないでいくでしょう
いのちいのちいのち かがやけいのち
ねがいと りそうの みらいへ つながれいのち
泣いている人がいたら となりにすわり
たのしいことがあったら いっしょにわらおう
笑顔は心のえいようだから
いっしょにわらって 元気になりましょう
いのちいのちいのち かがやけいのち
ねがいと りそうの みらいへ つながれいのち

わかそよ けんりグループ

【3/28 練習・話し合い】

最初のけんりグループの話し合いでは、まず、なぜ「けんり」のパートを選んだのか、どんなときに権利を訴えたいと思ったかを聞きました。

- ・「自分で住む場所を選びたい」
 - ・「自由に仕事を選んだり将来のことを決めたい」
 - ・「自分たちで決める権利があることを伝えたい」
- また学級や練習に参加できていない仲間への想いも語られました。
- ・「いつもと違うわかそよに戸惑っているけれど、亡くなった仲間や会えていない仲間の分も頑張らないといけない」
 - ・「ここは、僕たちの生活の悩みを話し合っ共有できる場所、みんなの分も伝えたい」

主に「くらし」「仕事」「仲間」についての話が多く出たので、けんりグループとして伝えたいことを、まずこの3つにまとめて台本をつくっていくことにしました。

歌う歌については、この時点では、

- ・「ともだちのうた」
- ・「わたしぬきにきめないで」
- ・「わたしのしごとのうた」
- ・「あっぱれなじんせい」
- ・「ガッツ&ビート」が候補として出ていました。

【4/4 練習・話し合い】

前回出たテーマの「くらし」「仕事」「仲間」を元に、そこから権利として伝えたいことは何かをさらに深めていくために、話し合いました。

- ・「僕たちが生活の中で不自由さを感じていることを伝えるとリアルなメッセージになると思う」

・「ゆっくりご飯が食べられたり、お風呂に入ったり、友達と好きな時に連絡をとったりできる生活の場を自分で選びたい」

「周りの人たちは僕のことを思って生活のことを決めているけれど、僕の気持ちを聞いてほしい」

・「職場で感染が心配で休んでいる人がいる。学級にも来られていない人がいるから元気な歌を届けたい」

話し合いを重ねることで、「台本にみんなの言葉やエピソードを反映させていくことでリアルなメッセージが伝えられる」という意見が出て、そこから、メンバーが生活の中で感じていることや置かれている状況を表現した台本作りのイメージができていきました。

【4/11 練習・話し合い】

この日は主に仕事ついて話し合いました。

- ・「仕事で怒られたりすると自分に合っていないのかなと思う。一般就労で働いていたことがあったけれど店長がころころ変わって大変だった」
- ・「ここでは言葉で話せるけれど職場では話せなくなってしまうので、理解してもらえないので困ってます」
- ・「今はフロア清掃をしているけれど、青年学級の時間もあるから、仕事も楽しめる、がんばれる」
- ・「私たちが最高の人生を歩んでいくためにどういうことができるかを話したい」

「仕事」について表現したい部分が形になっていきました。

【4/18 練習・話し合い】

ここまで、どんな権利を訴えていくかについて

話し合いましたが、実現させたいことについての意見が出てきました。

・「筆談で言葉を伝える時間をつくりたい。これがぼくの言葉なので、しっかりと伝えていきたいです。この方法をもっと認めてもらいたいです」

・「みんなで NHK パークに行ってキャラクターと遊びたい。」

またけんりグループで歌う歌について、いろいろな人の人生が歌詞になっている「おいたちのうた」を提案したところ『タイトルを「ゆめのうた」にして、みんなの想いを歌詞にできたらいいと思う』という意見が出て、メロディーは「おいたちのうた」で、新しい歌詞をつくることになりました。最終的に歌のタイトルは「てんぼうのうた（おいたちのうた）」になりました。

そして、「くらし」「仲間」「仕事」というテーマに「ゆめ」というテーマも加わって台本をつくっていくことになりました。

【6/20 練習・話し合い】

ここまでつくってきた台本を最初から通してみたところ、

・「伝わりやすくしてシンプルなメッセージにした」という意見が出ました。

グループホームの事情で参加できないメンバーが、けんりのパートに参加したかったという話を聞いたので、練習の中で電話をかけて話をしました。学級では同じコースのメンバーと「元気？会いたいよ」と話しました。

その電話でつないだメンバーが書いた作文があります。その作文について「大事なメッセージを伝えてくれるから読みたい」という意見が出ました。

みんなに合えない状況でも希望を忘れずに前に進んでいく、という内容です。

学級やわかそよに來られていない仲間へのメッセージを伝える部分で、読むことになりました。

【7/4 練習・話し合い】

台本について、今まで作ってきたものを改めて確認しました。

・「恋のことをセリフで言いたいです」

・「歌のダンスを考えたい」

歌については、ただ歌うのではなくて動きをつけることになりました。「わたしのしごとのうた」に「きっとはなさくだろう」という歌詞があります。その時にみんなで花の絵をかかげることになり、絵の作成を行いました。

歌のタイトルにもなっている「わたしぬきにきめないで」という言葉もけんりグループとして重要なメッセージになるということで、この言葉も書いてかかげることになったので、プラカード作成も行いました。

それから、東京都議選があったことから、今回投票に行ったメンバーから、権利について伝えたいことがあると話がありました。このメンバーは筆談で投票をしました。

・「投票で候補者の名前を書く時に、人に手を添えてもら必要があるけれど、それだと本人の意思かどうかわからないと言われた。僕に意思がないかのような対応だったので、僕たちにも投票する権利があることを伝えたい」

今回出た意見を踏まえて、みんなが自由に恋愛する権利、投票する権利についても伝えることになりました。

【7/18 話し合い・練習】

練習としては最後となったこの日は、どのセリフを誰が読むか決めました。

また歌について、「わたしのきもちをつたえたい」を歌うことになっていたのですが、他のグループとかぶることになったので、急遽、けんりグループは、土曜学級のメンバーが多いことから土曜学級でつくられた「じぶんらしく」を歌うことになりました。そして、自分らしく生きていくことについてのセリフを加えて、土曜学級のメンバーが担当することになりました。歌に動きをつけるために、「じぶんらしく」の「ゆっくりいこう」というサビの部分で、歩くように身体を動かすことにしました。

【台本の構成】

最終的に以下のことを表現することになりました。

- ・「不自由さを感じていること」
- ・「恋愛する自由」
- ・「投票する権利」
- ・「言葉があること・意思があること」
- ・「仕事の選択肢がもっと欲しい」
- ・「住む場所を自分たちで選ぶ」
- ・「会えない仲間の言葉を代わりに伝える」
- ・「学びの場である青年学級の大切さ」

また障がい者権利条約に触れることで青年学級の位置づけができるので、条約によって青年学級で学ぶ自由が保証されていること、それを維持していくためには、障がい者権利条約を自分たちで守っていく必要があるということもメッセージとし

て伝えることになりました。

【最終的に決まった曲目】

1. 「わたしぬきにきめないで」
2. 「わたしのしごとのうた」
3. 「自分らしく」
4. 「あっぱれなじんせい」
5. 「てんぼうのうた（おいたちのうた）」

【8/8 本番を終えて振り返り】

- ・「いつもより緊張した。みんなに見てもらえるように楽しくやった。いろんな人に見てもらいたい。」
- ・「緊張しましたが、うまくセリフ言えました！つぎはカホン(楽器)も。」
- ・「(筆談)みんなのいいところがこののんびりとした時間も合わせていい発表になったと思います。このグループで一緒に書いたりして意見が言えてよかったです。来れなかった人たちの分も伝えられたと思います。」
- ・「緊張して、うまくセリフが言えなかった。やってみてよかった。」
- ・「よかった。ありがとうございます。すごく楽しかった。歌いたかったから楽しかったです。またやりたい。今度は市民ホールでやりたい。」
- ・「(筆談)いい意見を言うことができよかったです。この声で言うことがいちばん大事だと思っているので、声でセリフを言えたのはとても嬉しかったです。歌も声はたくさんだしました。このままコロナがいなくなってほしいと思いました。いいことはたくさんあったけど、コロナが関係ないことにならないといい活動ができないので早くコロナがいなくなってほしいと思います。みんなで

感染に気をつけて、また書いたりしていきたいです。これからもよろしくお願いします。」

・「(自分で紙に書く)ぼくは歌が楽しかった。みんなで歌をうたいました。踊りを踊りました。また歌いたいです。」

・「(筆談)歌がとてもよかったと思います。みんなの想いがとてもよく伝わる内容の歌詞になっていて、とても感激しました。おいたちのうたの新たな始まりのように感じています。いい歌詞なのでこれからたくさん歌っていきたいと思います。このやり方のこともいろんな人に知ってもらえるいいと思います。」

・「歌がよかった。セリフじょうずに言えました。みんなでやれてよかった。」

・「この場に来れている僕たちが仲間の言葉を伝えていくことは大事なことです。これからも来れていない仲間の言葉を伝えていきたい。」

【てんぼうのうた(おいたちのうた)】

この歌の歌詞は、けんりグループのみんなの意見から作りました。

みんなが伝えたいことがこめられています。

「てんぼうのうた(おいたちのうた)」

1.いろいろなおもいをもって わたしたちはここに
いる
はなすことができなくても みんないしをもって
いる
さべつにいかりやかなしみを こころのなかでい
だいてた
じぶんのことはじぶんできめたい わたしのこと

ばをきいてほしい

2.じぶんにあったしごとを わたしたちはさがし
ている

いまできることだけでなく ちょうせんだってし
ていきたい

つらいこともあるけれど じんせいをゆたかにし
てくれる

じぶんのためにだれかのために かのうせいをひ
ろげたい

3.いろいろなひとにであって わたしたちはここに
いる

いまはあえないなかまたちを ずっとところにお
もってる

ともにすごしかたりあったひび あなたのえがお
おもいだす

なかまがたいせつにしてきたおもいを みんなで
かたりつづけよう

4.いろいろなことをかんがえて わたしたちは生き
ている

なかまたちとささえあい ぼくらのけんりをうた
っていく

たとえしゃかいとかべがあっても そのかべをぼ
くたちはくずしてく

ああもつとぼくらがかがやける そんなせかいを
つくっていこう

ああもつとみんながかがやける そんなせかいを
つくっていこう

わかそよの歴史グループ

6月20日

参加者…公民館学級生7名、土曜学級生1名
はじめに、わかそよの、前回公演までの内容や、
今まで観たビデオの感想を出し合い共有しました。
経験の長い担当者から、わかそよの歴史の話を
しました。その後、参加者の今の生活についても
話し合いました。

「自宅で一人暮らしをしていた時は、ヘルパーさん
が来て、夕飯を作ってくれた。洗濯は自分で行
っていた。

「ショートステイでのお風呂は、昼間でなく、僕
は夜に入りたいんです」などの話が出ていました。
*わかそよで伝えたい事を話しあいました。

わかそよの歴史の話を聞いて「歴史がわかっ
た」

「僕たちが何かして感じることや、考えているこ
とを伝えていけたらいいと思っています」「僕が話
したいのは、当時の仕事、生活、学級について、
色々な思いがありました。今もあります。それが
うまく伝えられないのがもどかしいです」

参加者の、気持ちや、わかそよへの思いを改め
て、確かめ合う時間となりました。

7月4日

参加者…6名 他のグループから1名移動
1名の学級生は、感染拡大の広がり、参加を取
りやめました。

*イメージ台本を確認

わかそよのスタート

学級ソングが完成したこと

1学級生の思いから、学級生の皆と一緒に
コンサートをして、お客さんがいっぱい来
てくれたこと。

町田の青年学級で、リーダーとして活動していた
青年が都内の本人活動の会に加わり、日本の制度
の「精神薄弱者」という名称を「知的障害」と変
える事が出来たこと。

最近のわかそよで取り組んだこと。

*わかそよで歌う歌の候補を出しました。

「ぼくらの輝き」「ともだちのうた」

「ひとつのいのち」「私の気持ちをつたえたい」

「夢にのせて」「わかそよテーマのうた」

参加者から「ギターを弾きたい」という要望が
ありました。

*当日のピアノ演奏者のピアノで、リズム、メ
ロディーの確認をしました。

7月18日

参加者…8名

*台本を読み合わせ、言いやすいように修正し、
だれがどこを言うか確認しました。

*読み合わせ練習

*ピアノ演奏者とギター演奏者と学級生で、歌
う歌を確認しました。

ともだちのうた【1番のみ】/学級の様子の映像
をながし、歌を歌う

ぼくらのかがやき【1番のみ】/ガヤガヤした音、
町の騒然とした映像をながす。

ぼくらの思いを or 君だけに輝く【サビ】/学級
生の当時の映像を映す

夢にのせて/高坂さんの写真を写す。

署名活動の歌【1番】

わたしのきもちをつたえたい

8月1日

リハーサル 健康福祉センター

参加者…7名

*セリフなど最終確認

*立ち位置確認

*歌、セリフ練習

前方のスライドの台本にルビがなく、紙台本のよ
うにスムーズにセリフを言えないところを反省し、
本番に備えていくことにしました。

8月8日

ビデオ収録本番 健康福祉センター

参加者…7名 担当者5名

実行委員で、最初から意欲を持って取り組んで
いた学級生は、本番では、完璧に台本を暗記して
ほとんど自力で、セリフを言っていました。

ギターを弾きたいとって意気込んでいた。

学級生は、ギターの調整ができてなくて、本
番前に急遽、担当者が調整をおこない差し棒での
支援で完璧に弾くことができました。

ギターを演奏した学級生の収録終了後の満
足そうな様子は、印象的でした。

リコーダーを吹いた学級生には、もっとソ
ロのフレーズを演出できたらよかったかと

の反省がありました。

わかそよ経験の長い2名の学級生は、セリフや歌声も通りが良く、発表をリードしていました。わかそよの歴史を刻んできた2人の学級生の姿に、ここまでの学びのすばらしさを感じました。

本番、予防接種の副反応で体調悪く、収録に参加できず残念でしたが、リハーサルの時のセリフを言っていた映像を差し込むことで参加することができました。

「わかそよの歴史を学びたい」と取り組んできたわかそよ2回目経験の学級生は、話し合いの時から一生懸命な姿が伝わってきました。「歴史のグループに参加していろいろなことがわかりました」と感想を述べていました。これからの新しい学級生への橋渡しとなっていく存在が現れ、成果を感じました。

わかそよの歴史の台本

- K.Y=このコンサートは青年学級からはじまりました。青年学級では音楽(おんがく)や劇(げき)、ものづくり、自然(しぜん)に親(した)しんだり、スポーツにもとりくみました。フォークソングをいっぱいうたいました。
- A.K=もっと自分(じぶん)のきもちをうたでつたえたいなあ
- F.Y=自分(じぶん)たちで歌がつくれなにかあ〜
- O.N=ぼくがギターを弾(ひ)くから歌ってみて
- K.Y=「♪ともだちを♪もっと♪たくさん♪つくりたい」(O.Nさんのギターに合わせて)
- うた「ともだちのうた」【1番のみ】/学級の様子
の映像をながし、歌を歌う
- K.Y=「じゃあ、みんなに聴いてもらえるように市民(しみん)ホールでコンサートをしよう」
- Y.K=「えー！そんな無理(むり)だよ」
- A.K=「大丈夫(だいじょうぶ)、きっとできるよ」
- K.Y=「よーし、ぼくがチケットを売(う)ってこよう！」(K.Yさんステージ中央に移動)
- (K.Yさんの車いすには「チケット買ってください」の看板を掛ける)
- K.Y=「すみませーん、今度(こんど)の日曜日に、ぼくたちのコンサートがあるんです」

担当者1=「じゃまだよ」

担当者2=「きょうみないね」

担当者3=「へー、君たちがやるんだ、チケットはいくら？」

K.Y=「1枚(まい)1000円です

担当者3=「じゃあ一枚もらおうかな」

K.Y=「ありがとうございます！」

みんな=「やったー！」(みんな前にでてくる)うた「ぼくらのかがやき」【1番のみ】/ガヤガヤした音、町の騒然とした映像をながす。

F.Y=「やった、すごいよ、お客さんまんいんだったよ」

O.N=「お客さんがいっぱい拍手(はくしゅ)してくれたね」

K.Y=「チケット買ってくれた人(ひと)もきてくれたよ」

Y.K=「また来年もコンサートをやろう！」

みんな=「おー！」

K.H=ハーモニーコンサートで仕事(しごと)や

自立生活(じりつせいいかつ)、性(せい)や結婚(けっこん)のことなど、たくさん
のことにとりくみました。

Y.K=「ぼくはミュージカルの主役(しゅやく)を演(えん)じました」

うた「ぼくらの思いを」or「君だけに輝く」【サビ】
/学級生の当時の映像を映す。

うた「ぼくのおもいを」:Y.Kさん当時の映像を流す。

K.H=わたしたちは社会(しゃかい)にもよびかけました。

K.Y=「ぼくたちは精神(せいしん)薄弱者(はくじゃくしゃ)なんて呼(よ)ばれたくない」

Y.K=「聞いてよ！ぼくたちの意見(いけん)で、とうとう法律(ほうりつ)の言葉(ことば)が変わったよ」

うた「夢に乗せて」高坂さんの写真を写す。

K.Y=「この町(まち)でくらせるようにグループホームをつくるための署名(しよめい)をおねがいしまーす」

みんな=「おねがいしまーす！」

K.Y=「署名(しよめい)をおねがいしまーす」

うた「署名活動(しよめい)のうた」【1番】

K.H=今では、わたしたちのまちには、たくさん

のグループホームができました。

F.Y=わたしたちのねがいは この町(まち)でく
らしていくこと

みんな=「生きること！」

K.H=わたしたちは命の大切さについて 話し合い、
たくさんのうたをつくりました。

A.K=いろいろな方法で、ことばや思いも 伝えら
れるようになりました。

うた「わたしのきもちをつたえたい」

K.Y=若葉とそよ風のハーモニーコンサートは
社会とつながっていくために、これからも
かつどうをつづけていきます。

♪署名活動の歌♪

1 みんなでまちへくりだそう

今日はしょめい活動日

ちょっとドキドキするけれど

おおきなこえをだしてみよう

みんなでまちへくりだそう

今日はしょめい活動日

2 みんなでまちへくりだそう

今日はしょめい活動日

みんなのくらしをまもるため

ゆうきをだしてよびかけよう

みんなでまちへくりだそう

今日はしょめい活動日

♪ともだちのうた♪

1 ともだちともっと いろんな話がしたい

ともだちをもっと たくさんつくりたい

仕事が終わって うちに帰ったとき

だれかに電話を かけてみたくなる

病気で休んでる みほさんは

今ごろどうして いるだろうか

ともだちともっと いろんな話がしたい

ともだちをもっと たくさんつくりたい

2 ともだちともっと

いろんなところへいきたい

ともだちをもっと たくさんつくりたい

私の車イス 押してくれる

友だちといっしょに まちへでたい
ひとりじゃつまらない

映画やコンサート

ともだちといっしょに でかけたい

ともだちともっと

いろんなところへ行きたい

ともだちをもっと

たくさんつくりたい

♪夢にのせて♪

1 だれにもじゃまされないで

自由に生きてみたい

どこまでもつづけ どこまでも走れ

ぼくのサイクリングロード

わたしのブルーバス

だけど すきな人と

ふたりでくらすのも

ぼくのゆめ

どうしたら すきと言えるかな

結婚できるかな ふたりではたらくのも

2. みんなのしあわせ それは

わたしのしあわせなの

かなわない夢でも たいせつなことは

ゆめをもつこと わすれないこと

♪わたしの気もちを伝えたい♪

いろんなひとたちの れきしのうえで

いまなにが つたえられるだろう

たくさんのことばが ここにあつまって

つながってほしい わたしのおもい

1 いまはいない わたしのなかまは

このぶたいで なにをはなしただろう

おおくのこんなんをのりこえてきたから

ことばにやさしさ あふれている

さべつにこえを あげてきたから

いのちのかちを いまつたえる

いろんなひとたちの れきしのうえで

いまなにが つたえられるだろう

たくさんのことばが ここにあつまって

つながってほしい わたしのおもい

2わたしのきもちが わたしのなかに
そのおもいで ステージをかざりたい
わたしたちのきもちはないように
あつかわれてきたからこそ
つたえたい
いのちがあるから かがやける
いのちのかちを いまつたえる

いろんなひとたちが ここにあつまって
わたしのかがやき いまみつかる
わたしたちのいのちは
みんなといっしょに
いまここに かがやいてる

【転調】

ぼくらのれきしは これからもつづいて
つぎのひとたちに つたわっていく
ことばはそれだけで いみがあるけど
かんしゃとともに ひろがってほしい

平和の輪を広げようグループ

1. 集団の構成

4月の全体練習までは希望のテーマに応じたメンバーで構成されていました。緊急事態宣言明けの6月からは、各学級での活動となり、元々ひかり学級のメンバーが多かった「平和の輪を広げよう」グループにひかり学級として所属することになりました。

2. 集団の特徴

グループ名は、とびたつ会の歌「輪をひろげよう」をイメージして「平和の輪をひろげよう」と付けました。

6・7月の学級日では、普段わかそよに参加しないメンバーも小物づくりや話し合いに加わり、学級全体で臨めたのも例年とは違う特徴です。

3. 活動のねらい

- ・東日本大震災から10年、やまゆり園事件から5年、コロナ禍、私たちの暮らしについての4つを柱に、それぞれで伝えたいことを考える。
- ・普段わかそよに参加していないメンバーも参加できるきっかけをつくる。

4. 活動の様子と評価

3月28日 結団式

平和グループで伝えたいテーマと発表方法について話し合いました。東日本大震災から10年、やまゆり園事件から5年、コロナ禍など具体的なテーマが浮かびました。

4月4日 全体練習

具体的なテーマから関連する歌を歌いながら選

曲していきました。発表方法については、ミュージカルと紙芝居を融合させた、ミュージカル紙芝居という案や、背景に写真や絵を入れようとの案も出ました。

4月18日 全体練習

発表内容として、「コロナの影響で生活が変わったこと、やまゆり園事件で多くの仲間が亡くなったこと、震災から10年経ったこと、コロナで変化した自分たちの暮らしについて」と絞られ、歌も5曲に選曲されました。

6月6日 開級式

ひかり学級として平和グループに参加することを確認しました。4月まで練習に参加していなかったメンバーもいたため、改めて「平和を感じる時」、「コロナが収まったらやりたいこと」について話し合い、発表の歌も見直すことにしました。

6月20日 学級日

半日の活動のため時間に制限がありましたが、話し合いをしながら候補曲を歌っていきました。

7月4日 学級日

話し合いで、「ピッカピカのころ」 「菜の花を咲かせよう」 「大切なこと」 「ぼくらの応援歌」 「いきてゆこう」 を発表することに決まりました。曲のイメージを出し合い、台本を考えました。

7月19日 学級日

本番参加するメンバーは練習、本番に参加できないメンバーは、発表で使う小物を製作しました。曲紹介のセリフを決めたり、振付の練習、練習風景を撮影したりして本番に臨みました。

8月1日 本番

他のグループは8日が本番でしたが、この日に参加が多かったため、急遽撮影本番となりました。

ピアノとギターとの音合わせは当日が初めてでしたが、通し練習を重ねていたため大きなミスなく終えることが出来ました。

今回のわかそよは、ひかり学級として取り組めたことが、例年とは大きく違う点です。コース活動ではない新鮮な取り組みとなりました。2020年度は仲間と集い、歌を歌う機会が少なかった分、わかそよはひかり学級の勢いと団結を取り戻すきっかけになりました。担当者も学級ソングを覚え、担当者同士の結束も強くなりました。今後の学級活動を進めていく上で、自信につながる経験でした。

また、一人ひとりにとって「平和とは何だろう」と考えるきっかけになりました。自分のやりたい事を自由にやれる日、普段通りに絵を描くこと、みんなで話し合いをしてみんなで伝えあうこと、自由に青年学級の活動をすること、みんなと思いを共有する時間、みんなが1日中笑えること、家族に会える時、クリスマス会や誕生日会、仕事をしている時、何もしていない時、青年学級、青空を見ている時、誰かと一緒にいる時、仕事でお礼を言われた時…。時間が限られたため、全てを形にはできませんでしたが、語り合ったことを歌にしていたら、より深みのある内容になったことでしょう。

5. 課題と展望

(1) 課題

意見をたくさん出し合いましたが、新曲の歌詞に載せる、テロップに出す、作文で伝えるなど表現方法をより探す必要がありました。「何を伝えるか」と同時に「どう伝えるか」も話し合えると良

いかかもしれません。

また、参加人数について、ひかり学級の半数程度で、公民館学級の参加率に比べてかなり低いものでした。感染者数の爆発的増加、健康福社会館の距離的な条件、ワクチン接種のタイミングの悪さ等、向かい風の要素が多かったとは言え、わかそよへの思いを感じる青年が少なかったように感じます。

学級という土台の上にわかそよが成り立っていることを考えると、日頃の学級活動から、学習成果を地域に発表する機会を大切にする必要があるのかもしれない。学級の中でもわかそよの歴史に触れたり、学級活動の中で社会に伝えたいことを話し合ったりする機会が増えれば、わかそよの舞台に立ちたいと臨む青年が増えるのではと期待します。

(2) 展望

困った時には傍で「大丈夫」と言ってくれる人がいて、自分は一人ではないと思える環境がある。今回のわかそよは、学級にはそんな平和な時間が流れていることに気付かせてくれました。

今の青年学級には、地域との交流を図ることが、自分たち自身に新たな気づきを生むのではないのでしょうか。わかそよ含め、一つ一つの取り組みが、青年学級が主体的な実践者として共生社会に向けた取り組みになるのではと考えます。

2022年夏にはひかり学級30周年式典を予定しており、10年分の歌、歌にまつわるエピソードを集め、台本を構成しています。それを弾みにして、2023年のわかそよ、2024年の青年学級50周年に向かっていきます。

6. 台本

M1 ピッカピカのころ

「菜の花を咲かせよう」という曲は、優しい花が元気に咲いていって、菜の花が風に揺られて気持ちよく新しい花を咲かせてよ、という曲です。ひかり学級のみんなと話した意見は、「命の大切さを伝えたい」「菜の花を大切にしたい」という気持ちを込めた歌です。僕が作った歌詞に、みんなの気持ちを合わせて完成しました。歌詞に曲をつけてもらってうれしかったです。皆さんと一緒に菜の花を咲かせましょう。聞いてください。

M2 菜の花を咲かせよう

お母さん、私を産んでくれてありがとう。
長生きして。私はグループホームで洗濯、掃除、ゆずのメンバーと、がんばっているから。
8月にはかがやきでワクチンを打ちます。お母さん元気でいてください。わがママを言ってごめんなさい。いつまでも長生きしてね。
私、会いに行くからね。
大切なことは、振りに注目してください。
わたしは、ともだちや仲間が大切なことです。
一番たいせつです。聞いてください。

M3 大切なこと

東日本大震災から10年がたちまちした。
被災した東北の人のために、この曲を作りました。
とどいていますか！
わたしたちの声 みんなつながっています。

いっしょにあるいていきましょう！

M4 ぼくらの応援歌

うましめんかな 朗読

M5 いきてゆこう

菜の花を咲かせよう

加藤 功治

Ribbon
Clarinet

A D E7

なのはなを さか せよう なのはなを さ

E A A D Bm

か せよう なのはなが さいたなら きつと わたし の
あんなの の

E7 A D E7

こころにも あた から いのち はな が 咲く ころ で しよ

A ⊕ A F^m Bm

う

E7 A Bm E7

つちにこぼれたら ちいさなね たのしいおん がく
ゆめをみながら なのはなはー たかせにゆら かれて

A F^m D E7

ききな がら いのち は よるこび に みるえ て いた
きもちよく あたら し いはな を さーかせ た

A ⊕

るよ

コロナ禍の今を生きるグループ

1 2021年3月28日実行委員会での話し合い

参加者は16人（とびたつ会11人、公民館学級3人、ひかり学級1人、土曜学級1人）でした。コロナ禍になって困っていること、わかそよで伝えたいことなど話し合いました。

- ・「ひだまりの音」をうたいたい。
- ・コロナがおさまってもらいたい。そのために手洗いとうがい。
- ・コロナが終わってみんなで出かけた。歌をうたいにいきたい。家ではたいくつ。
- ・暗い話はやめてくれ！4月花見もない。

困っていること

- ・彼女に会いに行けないこと。
- ・電車のイベントがなかったのつまらなかった。
- ・社員旅行に行けなかった。
- ・ワクチン接種まだかなあ
- ・グループホームの食事は順番にたべなければならぬ。それも15分ぐらいで。前のようにみんなでゆったり食べたい。
- ・かなり長い間、自宅で過ごすことになって、動きや関心が制限されてしまい、牢獄につながれているような気になりました。みんなに絶望しないで希望を持とうと伝えてください。

2 歌づくりと選曲

① 「ひだまりの音」

とびたつ会メンバーの稲村宏美さんが、コロナになって、会いたくても会えなくなってしまった友人を思い、書いた詩を歌にしたものです。

② 「ダメダメダメソング」

実行委員会の中で、コロナ禍になって困っていること、できなくなったことなどを話し合ったことを歌詞にした歌です。

③ 「自由」(コロナ禍バージョン)

とびたつ会の歌「自由」の3番をコロナ禍の状況に合わせて歌詞を作り直したものです。コロナ禍などの「緊急事態」の中で奪われてしまう「自由」「選択」をどのように考えるべきか。一方的な制約ではなく、丁寧な対話を重ね、共感をはぐくむことこそが、「わたしぬきにきめないで」のスローガンに表れる一人ひとりの人権を大切にすることではないかと、話し合いました。それを歌詞にしました。

④ 「あたりまえのうた」

青年学級の初期の担当者で、人形劇団ひぼぼたあむを主宰する永野むつみさんの詩を歌にしたものです。コロナ禍の前の「あたりまえ」とは何だったのか、この機会にそれぞれの「あたりまえ」を思い、分かり合う楽しさと驚きが表現された詩で

す。

⑤ 「ひまわり」

グループの中で、あらためて日常の生活を豊かに生きるとはどういうことなのかを、話し合いました。日々の生活、友人との時間、青年学級やとびたつ会の活動、仕事などあらゆる場面で自分らしく生きる、「私は私の人生生きる」ことの大切さを確認して、この歌をうたうことにしました。

3 活動経過

3/28 わかそよ実行委員会

4/11 わかそよ練習

(以後、緊急事態宣言により、活動休止)

6/13 とびたつ会 8人 曲目検討

6/27 とびたつ会 10人 曲目検討

7/11 とびたつ会 11人 セリフ検討

7/25 とびたつ会 9人 歌の練習

8/1 とびたつ会 8人 リハーサル

8/8 わかそよ2021 10人 収録本番

4 台本(セリフ)

・コロナウイルスがひろがって、緊急事態宣言がでて、とびたつ会、青年学級の活動ができなくなりました。会うこともできなくなったことで、仲間とともに過ごせる時間の大切さを改めて感じました。ひだまりの音は会いたくても会えない、切なさ、くるしさを歌にしました。再び仲間と会い、集える日をこころまちにする。そんな思いを込めた曲です。きいてください。

歌1 「ひだまりの音」

ひだまりの丘で 輪になる日
きみはなにを かたるのだろう
あいたくても あえないいま
きみはなにを おもっているの
窓から見える あの丘を
きみとかさね はなしかける
さみしさのりこえ 丘であつまろう
伝えたいことばを つむいでうたおう
みらいの希望を 笑顔でかたろう
丘からの色はどんな色
その日を夢見て ひとりおもいをはせる

ひだまりの丘で 輪になる日
きみはなにを かたるのだろう
あいたくても 会えないいま
きみはなにを 思っているの
夏がきそうな あの丘に
大きな雲が うかんでる
落ち込むときこそ 日の光あびよう
青いそらのもと つながっていよう
まっしろな雲で どこまでいこう

丘からの景色 はてしない
ひだまりの丘で またあう日を 夢見て

- ・コロナウイルス感染が広がって、生活が大きく変わりました。
- ・緊急事態宣言がでて、仕事に行けない日がありました。職場で、感染した人がいて、その人はしばらく仕事にこれませんでした。
- ・ぼくは家で在宅勤務をしました。職場の仲間とあえなくなってしまったので、さびしかったです。
- ・仕事が休みになってしまって、仕事がたまってしまいました。公民館が使えなくなって、とびたつ会ができなくなってしまいました。
- ・若葉とそよ風のハーモニーコンサートが、市民ホールでできませんでした。残念です。

歌2「ダメダメダメソング」
マスクしないと ダメダメダメ
窓をあけなきゃ ダメダメダメ
手洗いしないと ダメダメダメ
消毒しないと ダメダメダメ
コロナにならないためだから
みんなで、まもろう まもらせよう
「スカイツリーに いきたーい！」
カラオケ行ったら ダメダメダメ
居酒屋いっても ダメダメダメ
大声でしたら ダメダメダメ
旅行にいったら ダメダメダメ
コロナにならないためだから
みんなで まもろう まもらせよう
「とびたつ会にあつまったーい！」
でーもー
感染なかなかとまらない
マンボー出しても 効果なし
いつまでつづくこの事態
自由と安心 夢にみる

みつになつては ダメダメダメ
あつまることも ダメダメダメ
うたをうたっちゃ ダメダメダメ
たのしいおしゃべり ダメダメダメ
コロナにならないためだから
みんなで まもろう まもらせよう
でーもー
ワクチンなかなかとどかない
オリンピックだれのため
いつまでつづくこの事態

自由と安心 夢にみる



歌3「自由」
行きたい場所にいける
食べたいものが食べられる
好きな歌がうたえる
好きなものは好きだといえる
お金は自由につかえるし
みんながオレについてくる
宇宙はグルグルまわってる
オレのまわりをまってる
自由 自由 自由 自由

ほんとは それでは 生きていけない この社会
ルールをつくって おもいやって
なんとか自由をたもってる
たがいにささえ ささえられ
たすけあって生きている
夢をかたれば だれかと
夢にむかってうごきだす (それが)
自由 自由 自由 自由

コロナウイルス感染爆発する中で
いつのまにやら、社会に
差別と格差があふれだす
「自粛しろっ！」ってなんなのさ、
だれが自由をうばうのか みんなの対話と共感の
むこうに 自由がおどりだす (そこに)
自由 自由 自由 自由
・また、合宿に行きたい。
・自由に外出したい。旅行に行きたい。
・大きな声で歌いたい。
・新型コロナウイルス感染のことを忘れない。多くの命がうばわれたこと。差別された人。職を失った人、人生の大切な節目のイベントができなかった人。格差がひろがったこと。これまでのできごとをわすれない。

歌4「あたりまえのうた」
あたりまえが うれしい
あたりまえが いとしい
あたりまえが なつかしい

あたりまえを あきらめない
あたりまえを あたりまえにする
あたりまえは あたりまえだ

ボクのあたりまえは ボクのあたりまえ
キミのあたりまえは キミのあたりまえ
みんなちがって みんないい
だから
キミのあたりまえを きかせてくれよ
自分の言葉でね ラーララララー
ボクのあたりまえも きいておくれよ
平たい心でさ ルールルルルー
かさなるところが みつかるかもしれない
(間奏)

キミのあたりまえを ボクのことばでボクはきき
ボクのあたりまえを キミの 言葉できみはきく
おもしろいな ゆかいだな びっくりだ
あたりまえは あたりまえだけ
あたりまえじゃ ないんだな



・前に住んでいたグループホームで「いびきがうるさい」と言われて、毎日イライラしていました。そんなとき、職場で、グループホームのパンフレットをもらいました。鍵を開けて玄関を入ると自分だけのお風呂とトイレが付いていて、いつでも入れます。夜ごはん、朝ごはんと、世話人さんが出してくれます。僕は一人暮らしが、したかったので住んでみたくなりました。家族のみんなに、遠いから無理だよと言われましたが、母にたのんで、見学に行きました。落ち着いて、生活が出来そうなので 12 月の初めから体験で生活し始めました。バスと電車を乗り継いで通勤はすぐになりました。グループホームで友達もできて、くれに引っ越しをしました。白熊ちゃんのぬいぐるみもいて全然寂しくありません。職場も近い所に移る事にしました。就労継続支援 B 型の事業所で 4 日間、受中の仕事や、撮影と梱包をしています。グループホームの友達も一緒なので、楽しく仕事をしています。それまで 19 年間勤めていた事業所の紙漉きの仕事は、僕がいないとやる人がいなくなってしまうので、週に二日、続ける事にしました。紙きした一筆箋をずっと作って行きます。

歌 5 「ひまわり」
ちぎって ミキサー グルグル
型にながして 水切り
アイロンあてて ハガキができる
かみすき ぼくの仕事
やすみの日には にかけて
仲間と いっしょに過ごす
うたって おどって かたりあって
たのしい ぼくの時間
親元はなれ グループホーム
一人暮らしをはじめる
つらいときも ゆうきもてる
仲間がいるから
私は私の人生いきる 私は私の人生いきる

人とのつながりがあるから 私は毎日ほたらく
きびしさのなかにある あたたかさ
かんじながら
応援してくれる 人のきもちに こたえて
まかせて もらえる仕事を ふやしてゆきたい
雨がふっても かなしいときも
歌をうたえば はれるさ
どんなときも えがおになれる 仲間がいるから
私は私の人生いきる 私は私の人生いきる
ひまわりのように 私は生きる 太陽むかって元
気にうたう
私は私の人生いきる 私は私の人生いきる



ダメダメダメソング

とびたつ会
2021年04月11日

Em 1.2.3. Bm Em Em Bm Em

マスクしないと まどを あけなきや
カラオケ いったら ダメダメダメ いざかや いっても ダメダメダメ
みつになつては あつま ることも

Am Em Am Em Bm Em

てあらいしないと しょうどくしないと
おおごえだしたら ダメダメダメ りょうに いったら ダメダメダメ
うたを う たっちや たのしい おしゃべり

Am Am Bm Em Bm Em

コロナにならない ためだから みんなで まもろう まらせよう

G D C G D

で も かんせん なかなか とまらない マンボ だしても
で も ワクチンな かなか とどかない オリエンピ ックは

G C G D

こうかなし いつまで つづ く このじたい じゆうと あんしん
だれのた め いつまで つづ く このじたい じゆうと あんしん

Bm Em Em

ゆめにみ る
ゆめにみ る なんてだろ -

Am Bm Em

なんてだろ - なんてだ なんてだ ろ -

エンディング

ご覧いただきまして、ありがとうございました。
いよいよフィナーレです。

最後の歌は「わかそよテーマのうた」です。
この歌は、第1回から第19回までのコンサートのテーマをつなげて、作った歌です。

次回は、町田市民ホールでお会いしましょう。

♪わかそよテーマのうた

いまぼくらはこのまちで かがやいて生きてゆきたい

さあ歩き出そう あしたへ未来へ

今旅たつ きみのところへ

もっと自由にかがやこう ゆうきをもって

ラブソングをあなたに

すてきなえがおを おしえてください

たいせつなこと 夢をもつこと わすれないこと

誰もがあたたかく うけいれられる せかいをつくること

やさしいかぜを ふかせよう チャオ！またきみにあおう

自由にはばたけるせかいに ときはなとうころのことば

わかそよ わかそよ ひびけ わたしの思い

わかそよ わかそよ とどけ ぼくらの願い

伝えたい ありのままのわたし みらいへ はばたこう

つながるいのち いきてゆくこと うまれること

ぶつかって つながって ひろがっていきる

このわたしでいきてゆく いのちのかずだけおもいはある

みんなちがっても いっしょに生きる このまち

だで生きてゆく

わかそよ わかそよ ひびけ わたしの思い

わかそよ わかそよ とどけ ぼくらの願い

わかそよ わかそよ ひびけ わたしの思い

わかそよ わかそよ とどけ ぼくらの願い

わかそよテーマのうた

～私たちの声をとどけよう～

2020年12月
わかそよ実行委員会

C Am Dm G

C Am Dm F G C

F C Dm G7 C C7

F C Dm G7 C

C G7 C C7 F C G7

F G7 C C7 F G7 C

F G7 C C7 F G7 C

C G7 C F G7 C

F G7 C C7 F G7 C

わかそよ わかそよ ひびーけ わたしのおもいー わかそ
よ わかそよ とどーけ ぼくらのねがい いま
ぼくらは このまちで かがやいて いきて ゆきたい さあ
あるきだそう あしたへ みらいへ いまたびだつ きみの ころろへ もっと
じゆうに かがやこう ゆうきをもって ラブソングを あなたに すて
きな えがおを おしえて ください たい
せつな こと ゆめをもつこと わすれ ない こと だれ

F G7 C C7 F G7 C
 もが あたたかく うけ い れ ら れ る せ か い を つ く る こ と や さ
 F C Dm C F G7 C
 し い か ぜ を ふ か せ よ う チ ャ オ ま た き み に あ お う じ ゆ
 F C Dm C F G7 C
 う に は ば た け る せ か い に と き は な と う こ ろ の こ と ー ば わ か そ
 F C Dm G7 C C7
 よ わ か そ よ ひ び ー け わ た し の お も い わ か そ
 F C Dm G7 C
 よ わ か そ よ と ど ー け ぼ く ら の ね が い つ た
 C G7 C C7 F C
 え た い あ り の ま ぶ の わ た し み ら い へ は ば た こ う つ な
 F G7 C C7 F G7 C
 が る い の ち い き て ゆ く こ と う ま れ る こ と ぶ つ
 F G7 C C7 F G7 C
 か っ て つ な が っ て ひ ろ が っ て い き る こ の
 F C Dm C F G7 C
 わ た し で い き て ゆ く い の ち の か ぜ だ け お も い は あ る み ん
 F C Dm C F G7 C
 な ち が っ て も い っ し ょ に い き る こ の ま ち だ で い き て ゆ く わ か そ

わかそよテーマのうた

The image shows a musical score for a song titled "Wakaso-ya Theme Song". It consists of three staves of music in treble clef, with a key signature of one flat (F major) and a 4/4 time signature. The lyrics are written in Japanese below the notes. The first staff contains the first line of the song, the second staff the second line, and the third staff the third line. The music features a simple melody with some syncopation and rests. Chord symbols (F, C, Dm, G7, C, C7) are placed above the notes to indicate the accompaniment. The lyrics are: "よ わかそよ ひびー け わたしのおも いー わかそ", "よ わかそよ とどー け ぼくらのねが い わかそ", and "け ぼくらのねが あ い".

よ わかそよ ひびー け わたしのおも いー わかそ

よ わかそよ とどー け ぼくらのねが い わかそ

け ぼくらのねが あ い

わかそよによせて

日下部洋介

最初は、「若葉とそよ風のハーモニーコンサート」が、どのようなコンサートなのかわかりませんでした。自分は、「けんりグループ」に参加したのですが、初めての参加ということもあってどう形にしていけばよいかと思いました。ですが、「〇〇さんが話したいみたいだから意見聞いて」など、たくさんの方の話を教えてくれて、当たり前のことだったのですが、周りのみんなの方が先輩だったと気づき、助けてもらうことや教えてもらうことがたくさんでした。

台本等も、自分たちで一から作成していく中で、同じグループ内で話し合ったことをどういうふうに全体に提案していくかや、相手の意見を尊重していくことの大切さにも気づかせてもらいました。また練習の中でやりきれなかった小物づくりなどは、同じグループの人と日程を合わせて公民館に集まって作成したりもしました。

そうした人と協力して一つのものを作り上げていくということが、とても大きな学びとなった経験でした。

本来であれば今回が第 20 回となる記念のコンサートであるはずだったのですが、話し合い、まだ参加できない人も多いのでみんなが参加できるようになった時まで、20 回はとっておくことになりました。そんなふうに、みんなの仲間への想いを感じるということがとても多かったです。

今までのわかそよの歴史を覚えてもらったり、過去の映像も見ながら、実際に実行委員会から一から関わってみて、だんだん「みんなが自分たちの想いを社会に伝えていくためのコンサート」なんだと知りました。

だからこそ、何度も何度もみんなと話し合いを重ねながら、今伝えたいこと、テーマ、構成、歌などを丁寧に決めていくのだと。

ひとつひとつ丁寧にじっくりには、やっぱり、信頼関係もとても大事で、そうしたことも一緒にコンサートを創り上げていく中でうまれてくるのだということも感じました。終わったあとは、もっとこうできればよかった等思いましたが、行っ

たから形になりまた次に繋がるのだと思いました。一つのことをやりきった達成感もありました。

初めての参加でしたが、長い歴史があって、皆さんの人の想いで続いてきたので、大事に繋いでいきたいです。次のわかそよでは、どんなメッセージを発信するのか、どんなコンサートになるのか、とても楽しみです。

斉藤由衣

はじめてわかそよを経験し、改めて感じることでできたのは青年たちの強さでした。

例年とは違う形だったり、練習時間も多く取れなかったり、社会状況を見極めながら活動を進めなければならない難しさがあった一方で、わかそよの期間を通して青年たちからは常に「前に進むんだ」という気持ちが伝わってきました。また、絶えず社会に向けて発信すること、自分たちで社会を動かしたいという想いの強さも感じました。私は自分の意見を前に出すことが得意ではありませんでした。自分の考えを相手に合わせて曲げてしまうこと、諦めて妥協してしまうことが多く、それがいつしか当たり前になっていたように思います。自分の想いや願いを言葉にすることで希望が生まれることは多くありますが、それには不安が伴ったり、行動に移すことが躊躇われたり、難しかったりということもあります。しかし、青年達は社会に訴えることを止めることなく、社会を変える力を持っているのだということを実感しました。このことをきっかけに、少しずつ自分の想いを言葉にし、やりたいことを実践していくことができるようになりました。これからも大切なことに対して真っすぐに向き合える自分でありたいと思います。

わかそよの期間を経て、今まで以上に青年の想いや強さに触れることができ、改めて青年学級という場に参加できていることのありがたさを感じております。今後とも、この経験を活かし、たくさんの方の学びを得ていきたいと思っています。

吉岡英樹

私は、わかそよ自体初めて参加しました。しかも、2 週続けて参加させて頂くことができ良かつ

たと思います。8月1日日曜日の初日は、当初わかそよのリハーサルでしたが、ひかり学級は、担当者スタッフが添っておりいきなりの本番となりました。ぶっつけ本番となり少し緊張してしまいましたが、青年達の力に迫りに圧倒され何とか無事に終わる事ができ良かったです。正直終わった時はホッとしました。

2日目8月8日日曜日本番は、先輩方から誘われて行きました。2日目は、何をしてもよいのか分からず正直戸惑いましたが、公民館学級の担当者スタッフのお手伝いをする事になり、初日8月1日日曜日よりも少し気持ち的に落ち着く事ができました。何だかよく分かっておりませんでしたので半分担当者というよりお客さんになってしまったのが反省でしたが、2日間通して初わかそよコンサートに出演させて頂き、良い勉強をさせて頂けたことに感謝致します。

皆様、お疲れ様でした。

藤野 蒼大

初めてのわかそよは、青年学級に関わってすぐだったこともあり「何が何だかわからなかった」というのが正直な感想です。しかし、経験が無かったからこそ、このわかそよで吸収できることが多かったと思います。青年学級が大切にしていること、自分が参加するにあたってどの目線にいるべきのかなど、今につながっていることを、学級ソングや青年のみなさんとの会話から感じました。間違いなくこの時期に参加して良かったと思います。参加してみて、楽しかったという思い出だけではありません。少しでも学級ソングを覚えて一緒に歌えればよかったな、積極的に話しかけに行ければよかったなと反省と後悔が今になって沸き上がってきます。

しかし、この後悔は決して暗いものではないと思います。その後悔や反省の分、次のわかそよが楽しみです。この一年、青年学級に関わって、また違った景色が見られると思うと今からワクワクです。

大高綾音

わかそよに初めて参加してみて感じたことは生き

ること、命のすばらしさです。今回のわかそよはコロナ禍で出来ることを探し何度も練習してきました。その過程で自分たちの意思を伝えることが自分の命を生きることにもつながるのだと感じました。学級ソングは青年の意思が歌詞になったものです。私自身、青年たちと一緒に歌いステージを作り上げる中で「生きること」について考えさせられました。学級ソングに込められた青年の想いを聞いて、私は自分の命にまずは感謝して、今後どんなに大変なことがあっても自分の命を強く生きていこうと思いました。生きることは大変です。やめたくなくなるときもあります。でも命があり人生があるから人間は強くなれます。わかそよを通して大切な事を青年たちは教えてくれました。青年たちと一緒に次なる未来を力強く生きていきます。

鈴木 蒼

ひかり学級に参加してみて、初めて青年達と関わっていく際、初めての経験で学ぶことも多かったが、特に印象に残っていたのが歌のリクエストである。それぞれ意見を積極的に出し、楽しそうに歌っていたことから、早く覚えて一緒に歌ってみたいなど感じるようになった。何度も聞いているうちにメロディーや歌詞も魅力的に感じてきた。わかそよに携わって、歌に載せて障がいがあることによる苦悩、普通の人と同じ暮らしをしたいといった想いを伝えていくというのがとても素晴らしいと感じた。このわかそよに参加して、より一層青年達のことや青年学級に関心が湧いた。そして障がいというのもよく考えるきっかけとなった。